

つくばフォレストクラブ「先島諸島の旅」報告書

文 佐藤幸輝
佐藤信子
写真 富田研二

この度、塚本氏の若さ溢れる計画プランに基づき、6月28日から7月2日まで4泊5日の沖縄県先島諸島植物観察の旅を行いました。

参加者：福木哲朗 富田研二 山田光子 小林光子 遠藤純子
塚本紘 塚本栄子 諸持成美 諸持洋子 佐藤信子 佐藤幸輝 以上11名

琉球列島とは、九州と台湾の間に弧状に連なる約200の島々の総称を云うが、我々が訪ねたのは八重山諸島の石垣島、西表島、竹富島、に加え宮古島の先島諸島でした。

乗り物ではプロペラ飛行機、フェリー、レンタカー、クルーズ、サイクリング等と各々の健脚を駆使。

琉球列島では、季節ごとの梅雨と台風が豊富な雨量をもたらし、世界的に珍しい湿潤な亜熱帯をつくっています。この世界的にも貴重な気候帯のある琉球列島には多くの植物が分布し、日本でも最も種の多様性が高い地域といわれています。その反面、残念なことに最も絶滅危惧植物の集中する地域ともなっています。

種の多様性が高く、絶滅危惧種が集中する地域をホットスポットといえます。2005年、日本列島の中でも琉球列島は種の多様性が高い地域となっており、琉球列島の単位面積当たりの植物種数は九州以北の日本列島の約45倍といわれています。（「琉球の植物」国立科学博物館）

先島諸島固有の植物、生態系に興味を抱き 6月28日9:45、羽田空港に全員集合。東京は梅雨の真っ最中、小雨で気温は21℃。

羽田発11:15 石垣空港直行便で3時間余り、気温33度の亜熱帯地石垣空港に降り立つ。

それでも通りぬける風はさらっとして本土特有のジメジメ感がなく、これならハードスケジュール達成の予感あり。

6月28日(火):15:00レンタカー2台に分乗、石垣空港から白保海岸に向かう

- ☆ 初めの目的は白保小学校近くの樹齢150~200年のアコウ(オオバアコウ)の大木を探す。イチジクに似た果実をつけ、気根で親樹を覆いつくし、枯らしてしまうこともあり「締め殺しの植物」と呼ばれます。



- ☆ バンナ公園で塚本夫人から沖縄三名花を教わる
「ディゴ、サンタンカ、オウゴチョウ」 ゲットウ(月桃・ショウガ科)



ハナショウガ属(写真)を初めて知る

- ☆ 石垣鍾乳洞事務所入り口にはガジュマルの大木が
その特異な姿から木の精霊(キジムナー)が宿ると信じられ、



動物や鳥たちが集まる憩いのオアシスでもありそう。 観葉植物ガジュマルも幸せを呼ぶ多幸の木で人気。

- ☆ 鍾乳洞は太平洋に続いているらしい

この日観察した植物:オオバアコウ、フクギ、途中、宮良川の橋からマングローブ林。バナナ公園ではカラスザンショウ、オオバギ、バリバリノキ、クワズイモ。八重山鍾乳洞ではガジュマル、パパイヤ、クワズイモ、ハイビスカス、ゲットウ、オオイタビ、ベニデマリ(コバノサンダンカ)、クロトン、コダチヤハズカズラ、ミフクラギ(オキナワキョウチクトウ)

29日(水)7:00 石垣港～西表島上原港(フェリーで40分)

- ☆ 西表島は沖縄本土につぐ面積を持つ
- ☆ 環境省より西表石垣国立公園の大規模拡張発表ありと知る西表島面積の9割が亜熱帯のジャングルというこの稀な自然景観が破壊されない事を願う
- ☆ レンタカーで西表北西部浦内川に向かう
- ☆ 9:30 沖縄県最長の浦内川「浦内川クルーズ」
- ☆ 下流船着き場にて、サガリバナ(薄黄色)を観察できた一年に数日、しかも夜にしか咲かない花。
サガリバナは見たかったが早朝のため断念。
カヌーに乗り換え支流に入ってゆけばこのサガリバナのトンネルがあるらしいが、我々はマングローブを目指す。



浦内川満潮時には8km上流まで海水が上がってくることから、海水、淡水、汽水域の動植物がみられ川の両岸は照葉樹林に覆われ干潮時は干上がり、満潮時には海水に水没してしまう特殊な環境に発達した林、マングローブは植物名ではなく、ヒルギ科のオヒルギ、メヒルギ、オオバヒルギ等をいう事を知る。



泥の中での根の酸素不足を補う呼吸根、不安定な地面に立つためのタコアシ、塩分を吸い上げた常緑の葉は黄色化して散る。





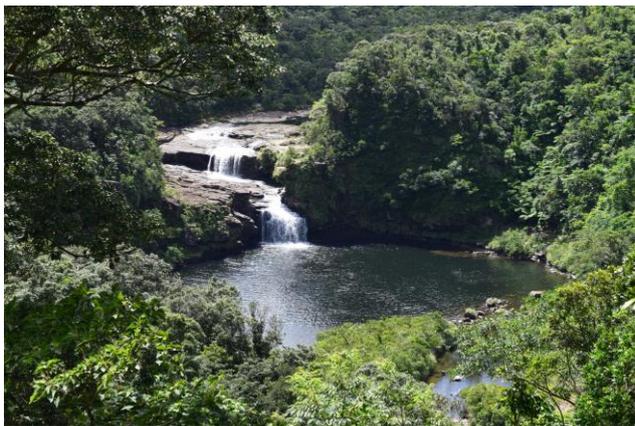
過酷な環境に適応してできたマングローブに埋め尽くされた広大な河口から 8km。上流船着き場から 1.5km、30 分も歩きマリウドウの滝展望台に上る。

マリウドウとは、流れ落ちる水が滝壺で丸く淀ぶところからきているそう。

さらに山奥カンビレーの滝をめざす。トレッキングの山道、カンビレーは神様が集まる聖地といわれる。

200m にわたって階段状に流れる滝の眺めは、ことその他涼しく壮観であった。

四方八方ジャングルのような処もあり、この土地特有の植物に目を奪われながら上り下りして、たくさんの観光客とすれちがう。



☆ ジングルに阻まれて陸路が通じていないため、船でしかアプローチできない秘境へ



浦内川～白浜港～船浮港

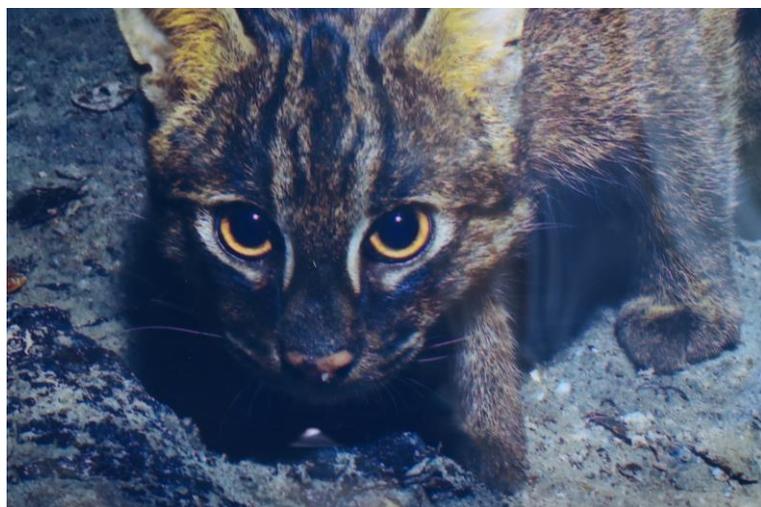
船浮集落にあるイダの浜、宝石箱のようなサンゴの海でひとときを

15:30 船浮～白浜～西海岸大原港へ

☆「古見のサキシマスオウ群落」を見学している中には亜熱帯地域からの視察団らしきグループも見かける

☆「西表野生生物保護センター」

イリオモテヤマネコは西表島の特別天然記念物丸い耳 目の周りの白いま取りが特徴。人馴れを防ぐため一般公開をせず、ヤマネコの剥製と映像がみられた



この日観察した植物：浦内川ではリョウビンタイ？ サングンカ、サガリバナ、マングローブ林(オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ)、オオハマボウ、サキシマスオウノキ、アダン、ヒカゲゴケ、ハシカンボク(最初に見たノボタンの仲間)、シマオオタニワタリ、コバノミヤマノボタン、ホシクサ？

30日(木)：朝食前に、「南風見田の浜」はえみだのはま



早朝ドライブ遠く波照間島眺む

8:30 日本最大のマングローブ群落「仲間川クルーズ」へ

☆ 乗船前に宿の主のすすめで、途中展望台に上り仲間川流域約 160haに及ぶ日本最大マングローブ、原生地を見渡す。圧巻なり しばし声なし否歓声有



遊覧船で☆遊覧船で河口から約 6.5km上流の船着き場まで、西表島では仲間川周辺にしか生えない「マヤブシキ」をはじめ珍しい植物がたくさん。ヤエヤマヤシ群落を眺め幸い満潮時に見合い、船着き場まで行けた。



木道を進むと日本最大級のサキシマスオウノキが現れる。これもマングローブの仲間、推定樹齢 400 年 板状の根の表面積は 77 畳分という圧巻のスケール

☆ オオハマボもマングローブの中でひときわ美しく、マヤブシキ、ヤエヤマヤシと相俟って日本最大規模のマングローブを川風うけながら満喫できた。



10:45 大原港～由布島

☆ 西表島の東端美原集落の対岸に浮かぶ周囲 2.5km の小島で距離 400m を「根性」ハチマキの水牛車にゆられ由布島へ



☆ 三線のしみじみとした音色に当地の穏やか人柄などが伝わる

☆ もともと無人島だった由布島に、竹富島や黒島から西表島に稲作のため通っていた農家が移住したのが始まりらしい。

1969 年台風被害でほとんどの島民が西表に移転。

島に残った一人のおじいさんがヤシを植え続け 1981 年に植物園を開園現在にいる。

当時から移動手段は水牛車だった。

☆ 蝶蝶園 亜熱帯植物楽園 水牛の池

☆ 日本最大の蝶「オオゴマダラ」も見事なら、たくさんの花が咲き誇る南国ならではの景色を十分楽しみ
亜熱帯植物も紹介しきれないほど観察できた

☆ 水牛には毛穴がない、プールの中で気持ちよさそう貢献度の高い水牛達は立派な墓地に葬られていた。





12:00 由布島～上原港～竹富島

☆ 竹富島は石垣島の南西約 6km にある。山も川もない平坦な島には赤瓦の屋根に魔除けの素朴な焼き物の唐獅子像をとりつけサンゴ礁の石垣などで暴風対策を施し、集落は国の重要伝統的建造群保存地区に指定。

☆ レンタサイクルでカイジ浜、白砂の小道、赤瓦の伝統家屋
南国の花々が彩る八重山の古き良き町並みを走る。

レンタサイクル返却

竹富港～石垣離島ターミナル

☆ レンタカーで石垣港へ

18:00 石垣港出発～川平(かびら)へ



この日観察した植物：南風見田浜ではギンネム(ギンゴウカン)、グンバイヒルガオ、キダチハマグルマ、クサトベラ (or テリハクサトベラ)、ハマオモト(ハマユ)、旅館付近ではオオゴチョウ、コバノサンダンカ。由布島ではアメリカハマグルマ、キダチハマグルマ、ベニヒモノキ、キバナキョウチクトウ、テイキンザクラ、ベニチョウジ、ハネセンナ (ハネミセンナ)、サルスベリ、ヤナギバルイラソウ、ハナキリン、コウシュンカズラ、ブーゲンビリア、ヒギリ、ショウジョウソウ、アリアケカズラ、クササンダンカ(ペンタス)、タコニキ、アデニウム(砂漠のバラ)、パイナップル、ヤエヤマヤシ、リュウキュウコクタン、デュランタ。西表野生生物保護センターではイリオモテヤマネコの剥製。古見のサキシマスオウノキ群落、サキシマスオウノキ。仲間川ではマヤブシキ(マングローブ林)、ヤエヤマヤシ、リュウキュウマツ、サキシマスオウノキ(日本最大樹齢400年)、サガリバナ、アダン、シレナジミの見本、パッションフルーツ。

7月1日(金):川平湾 さまざまな青をたたえる海

御神崎灯台



9:00 グラスボードでサンゴ礁遊覧

☆



青く光る枝珊瑚 満ち潮が始まり海は濁りはじめていた。降りて飲んだ生ジュース「おいしかった～」

☆ 底地ビーチ公園でみかけるモクマオウ

モクマオウの、松の葉のように見える部分は枝であって葉状枝と呼ばれる。(塚本夫人説明)
乾燥に適応し、八重山では防風林などにも利用されている。



平久保崎 サンゴ礁が取り囲む石垣島最北端の岬

☆ 白亜の灯台がコバルトブルーの海を背景に立つ

我々が立った時は大変穏やかな海だった



玉取崎展望台

☆ 展望台のあずまやから望む壮大なサンゴ礁のパノラマビューは、太平洋と東シナ海を一望。

☆ 遠くに浮かぶ巨大な雨雲が、水平線一つ所に雨降り下ろすさまを絵画のように見入る。

遊歩道にも南国の花々が競うように咲き誇っていた



14:35 石垣空港～宮古空港へプロペラ機飛行

☆ 上空から見下ろす宮古島

サンゴ礁が隆起してできた島、緑色と赤土できれいに仕切られていた場所はサトウキビ畑だった



- ☆ 野菜はゴーヤ、ヘチマ、トウガン、果物のマンゴー栽培も大変熱心らしい

15:30 レンタカーで池間大橋、伊良部大橋、来間大橋

- ☆ 透明度抜群の海を見下ろしながら、宮古島と橋でつながった小さな島々をめぐる絶景ドライブ！！
- ☆ 澄みきった海と空の間を駆け抜ける橋
海の上を 5km 余りもドライブできる宮古島。日本にもこんなにすばらしい海があった。



この日観察した植物：御神崎ではイリオモテアザミ、ハマササゲ、その他不明種あり。底地浜ではモクマオウ。川平湾から玉名崎ではヤエヤマヤシ、フウリンブソウゲ。宮古島では西平安名崎でソテツ、ギンネム。池間大橋、池間島、雪塩製造工場見学。伊良部大橋、伊良部大橋展望台ではテリハボクの花を見る。

7月2日:8:00 吉野海岸でシュノーケリング

- ☆ 丁寧に指導を受けてそれぞれに楽しむ
- ☆ クマノミや熱帯魚がたくさん巨大なナマコなども
- ☆ 引き潮がはじまってどんどん水深が浅くなるが、竜宮城へ行った気分ひたれた



東平安名崎

- ☆ 宮古島の最東端にある約 2Km の美しい岬



国指定名勝地、太平洋・東シナ海分岐点になる。

この日観察した植物: 東平安名崎ではハマゴウ、テンニンギク、ナハエボシグサ、ハマササゲ、シロノセンダングサ、ナンゴククサスギカズラ、ヒメイワダレソウ、ミヤコジマツルマメ

宮古空港発 15:25

7月2日 18:15 羽田着 空港にて解散

先島諸島めぐり、連日快晴に恵まれて、亜熱帯地域の生態系豊かな自然を十分肌で感じ取ることができました。

何事も成功するには準備が 70%といわれております。企画から滞りなく無事終了できましたことに心より感謝申し上げます。

皆様大変ありがとうございました。

植物の同定と資料提供は塚本紘、塚本栄子でした。



終わり